



平成21年4月8日

各位

会社名 株式会社リヒトラブ
 代表者名 代表取締役社長 田中 経久
 (コード番号 7975 大証・名証第二部)
 問合せ先責任者 取締役経理部長 大内 高明
 (TEL. 06-6946-2525)

業績予想の修正、特別損失の計上、繰延税金資産の取崩し、
 および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年1月16日に公表しました平成21年2月期(平成20年3月1日～平成21年2月28日)の業績予想を修正するとともに、特別損失の計上、繰延税金資産の取崩しおよび平成20年10月15日に公表しました平成21年2月期配当予想の修正について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成21年2月期業績予想数値の修正(平成20年3月1日～平成21年2月28日)

【連結】

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	9,750	△25	△30	△20	△1円10銭
今回修正予想(B)	9,600	△74	△80	△330	△18円21銭
増減額(B-A)	△150	△49	△50	△310	—
増減率(%)	△1.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年2月期)	10,026	84	107	23	1円28銭

【個別】

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	9,720	△25	△20	△10	△0円55銭
今回修正予想(B)	9,570	△64	△54	△326	△17円98銭
増減額(B-A)	△150	△39	△34	△316	—
増減率(%)	△1.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年2月期)	9,982	88	123	68	3円77銭

2. 修正の理由

サブプライムローン問題等の金融不安に端を発した世界同時不況ともいえる景気後退の影響により輸出が激減する等、企業収益が大幅に減少する状況となり、設備投資の縮小や内外需要の減少に伴う在庫調整圧力を背景に生産量が大幅に落ち込む等、国内景気は急速に悪化しました。また個人消費も雇用環境の悪化が進行しており、景気は先行きの不透明感が高まり、消費マインドが一層冷え込んだ状況となりました。このような状況のもと、売上面におきましては、景気後退の影響を受けた需要の減少により、当初予想を下回る見込みとなりました。また、利益面につきましても、原材料価格が依然高止まりのまま推移したことに加え、固定資産廃棄損およびたな卸資産評価損等による特別損失153百万円を計上したことに加え、繰延税金資産のうち約155百万円を取崩したことにより、当初予想を下回る見込みであります。

3. 特別損失の計上について

当期におきましては固定資産廃棄損、たな卸資産評価損等により、153百万円の特別損失を計上する予定です。

(1) 固定資産廃棄損の計上

当社におきましては、生産設備の更新等に伴う固定資産の廃棄損を毎期計上してきております。当期におきましては、48百万円の固定資産廃棄損を計上する予定です。

(2) たな卸資産評価損の計上

商品・製品のたな卸資産につきましては、期末において厳正な再評価を行ったことにより、88百万円の評価損を計上予定です。

4. 繰延税金資産の取崩しについて

当期の業績の見通しを踏まえ、繰延税金資産のうち、約155百万円を取崩す予定です。これにより、法人税等調整額(税金費用)は約110百万円となる見込であります。

5. 平成21年2月期配当予想の修正

(1) 修正内容

基準日	1株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
前回発表予想 (平成20年10月15日発表)	—	7円00銭	7円00銭
今回修正予想		5円00銭	5円00銭
当期実績	—		
(ご参考)前期実績 (平成20年2月期)	—	7円00銭	7円00銭

(2) 修正の理由

当社は業績や自己資本配当率などを総合的に勘案して配当を実施することを基本としつつ、株主の皆さまに対し、安定的に配当を維持していくことを重要な経営課題としてきております。

当期の期末配当金につきましては、通期業績予想や経営環境など総合的に勘案し、誠に遺憾ではございますが、1株当たり年間の配当金の予想を7円から5円に変更させていただきたいと存じます。

以上

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。